

令和2年度 学校自己評価表 米子松蔭高等学校

学校教育目標 「社会で真に役立つ実践的な人材の育成」	
① 自主自立の精神の涵養	責任と義務を尊重しつつ、自ら進んで目標に向かって努力する精神を養う。
② 人間性の陶冶	規律を守るとともに、人の苦しみや悲しみを正しく理解し、適切な行動のできる豊かで調和のとれた健全な人格の育成をめざす。
③ 勤労を尊重する精神の育成	勤労を尊重する精神を養い、社会に貢献しようとする意欲を育成する。
④ 進路指導の充実	生徒の興味・適性・能力を尊重し、適切な進路の決定ができるよう指導の充実を図る。
⑤ 学習指導の充実	わかりやすい授業を心がけ、生徒の適性に応じた指導に努める。
⑥ 生活指導の充実	生活面の指導を大切に、正しい服装容儀、規律ある生活態度で生きる姿勢を育成する。
⑦ 部活動の充実	顧問と生徒が目標に向かって共に努力してゆく中で、協調性・責任感・忍耐力を養う。

本年度の重点目標
建学の精神に基づき、これからの社会が必要とする人材の育成に努める。広い視野と知見を持ち、多様な価値観の中から、主体的に新しいものを創造していくことのできる力の育成を重点目標とする。

評価について A 達成できた B 概ね達成できた C やや不十分な点あり D かなり改善の余地あり E 全く不十分 ()評価せずまたは評価できず

学年分掌	令和元年度末の状況	令和2年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
教務部	<ul style="list-style-type: none"> (教務) タブレット端末の活用機会が徐々に増え、ICTが与える授業への効果にも期待ができる。学習指導方法が多様になる中で、協働性の高い授業や、教員同士の情報共有がこれまで以上に必要になってきた。また、全校や学年を単位として活動する機会が、生徒の学校生活に秩序と変化を与える役割を果たした。 (図書) 丁寧なレファレンスと資料提供に努め、授業支援の回数は増加傾向にある。また図書館の環境を整備することにより、生徒の読書、学習への姿勢に変化がみられた。引き続き、「読みたい気持ち」、「学びたい気持ち」を大切にしながら、図書館づくりに取り組むとともに、生徒・教職員に向けて図書館の使い方やサービスについても積極的に広報し、周知する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導の充実を図る。 授業時間の確保に努める。 学校行事の円滑な運営に努める。 読書、学習環境の整備、授業支援の充実を努める。 生徒・教職員に向けて、図書館を魅力的に広報する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による授業評価や相互授業見学を継続して実施する。タブレット端末を用い、ICTを生かした授業の促進を図る。 月間・週間計画、日課の調整や変更を迅速に行う。 前年度までの学校行事の運営を振り返り、都度、改善しながら早めの計画と円滑な運営を行う。 配架やコーナーを工夫し、整備することによって生徒が「読む」「調べる」活動をスムーズに行えるようにする。丁寧なレファレンスと豊富な資料準備を基本に、生徒に対しては資料の集め方や情報の活用の仕方について、授業の中で図書館オリエンテーションを効果的に行い、支援する。 本、図書館の魅力を感じられる広報誌を生徒とともに作成し、配布する。職員に向けても広報誌を作成し、資料を紹介する機会を増やす。授業に特化したサービスについても広報し、周知する。 		○		○	
総務部	<ul style="list-style-type: none"> 入試の受験料支払方法の変更や調査書の様式変更については中学校より良い評価を多数いただいた。 校内における入試事務作業については概ね円滑に進めることができたが、細かな部分で改善の余地が見られた。 各事業において松萌会役員の積極的な参加が見られた。 1号館を中心に校舎の老朽化が目立つ箇所がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 正確で円滑な入試事務作業の実施 学校と保護者との協力関係のさらなる構築 校舎の環境保全に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 説明会資料や出願書類等、中学校に向けてわかりやすいものを作成する。 出願から新入生説明会までの業務をスタッフ全員で共有するとともに各自が責任をもって役割を果たす。 松萌会役員とのより一層の連携を図り、会員の各事業への参加者を増やす。 環境・防災のスタッフで定期的に校内を見回り、古くなった部分や破損箇所を早期に改修することで生徒が落ち着いて学習活動に取り組めるよう、学校環境を整える。 歴史ある校舎に生徒が愛着を持てるよう、日々の掃除を徹底させる。 		○		○	
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 就職 潮目が変わってきている。来年度どう流れるのかは来年度になってみないと分からないが、最悪の場合を想定し、対策を立て対処する。 社会人として「就職」することの大切さ・責任感が近年薄れてきている生徒が多い。また、研究不足による早期離職が社会全体的に多い。 進学 学力向上のために、授業の大切さを促していき、定期考査・模試・検定などを学習目標として学習意欲を持続させた。また、模試の結果を分析し、教員の教科内での指導方針など話し合い学力向上に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 経済状況は不安定であるが、生徒一人ひとりをよく理解し、能力・適性に合った進路指導に努める。 生徒の早期離職に繋がらないように、応募前見学・企業研究を十二分に促し、就職した企業へのミスマッチが減るよう努める。 生徒それぞれに興味関心のある事を持たせ進路選択の幅を広げる。 生徒の希望進路合格を目指す。 基礎学力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は昨年度卒業生徒の就職先訪問が出来ないが、電話などで状況を把握しながら、本年度の各企業の採用計画を聞き出したい。また、企業との関係性は今まで培った信頼関係でカバーしたい。 担任及び部活動顧問・家庭、時には関係機関との連携を密にしながら、個別面談を重ね、適切な進路指導をする。また、時には企業研究のアドバイスをしながら希望とマッチしたより良い就職先選定の熟考を促す。 講演会の実施をやり方を考えながら行う。また、生徒への資料提供も積極的に行う。 多種多様な受験の仕方があるが、生徒の実態にあった受験方法の指導をしていく。 教科担当、担任間の連絡を密にし生徒の学力の共通理解をする。Classiなどのアプリを使って生徒の家庭学習のサポートをしていく。 		○		○	

学年分掌	令和元年度末の状況	令和2年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> 概ね学校生活は落ち着いていたが、挨拶をもっと積極的にできるように継続的な指導が必要。また、近年SNSの利用についての問題行動が増えてきた。 登下校時の交通ルール違反(併進・一時停止など)や交通事故も数件発生した。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を身につけさせる。 生徒が安心して通うことができるよう指導に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 新入生は、オリエンテーションを通して学校生活に早く慣れさせる。 挨拶の徹底を全校集会やルームなどで呼びかけるとともに、通学指導などで教員からも積極的に声をかけてもらうようにする。 服装規定の遵守のため服装指導を徹底する。 社会のルールやマナーを理解し守るよう指導する。(講演会等も含む)・薬物乱用・SNS 他 登下校中に事故や被害に遭わないよう安全指導を徹底する。(各ルーム、立ち番指導等) いじめを許さず、見逃さない。生徒の言動に変わった様子はないか注意する。 		○		○	○
人権教育推進部	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスへの感染が世界的に拡大する中、特定の国や地域の人々への誹謗中傷がみられるという報道があった。 インターネット差別問題など、「差別の現実から深く学ぶ」教材の資料化に努めた。生徒もSNSと自らの関わりを考えた(特に2年部・2年生)。 言葉遣いアンケートの結果をふまえた啓発活動は、次年度にも引き継ぐ。部落差別とネット問題に詳しい講師の講演を実施し、生徒の人権意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症に対する対応を、人権への配慮の観点から考える。 同和教育で培われてきた原則、鳥取県人権教育基本方針(第2次改訂)をさらにふまえ、多様な人権課題へ対応し、生徒一人ひとりが主体的に考える技能・態度を養う。 言葉遣いアンケートを実施し、自他の言動を振り返り、心無い言葉の防止をめざす。人権講演会を、人権課題に意欲的な方をお招きして実施し、生徒の主体的判断力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 文科省、県教育委員会人権教育課など行政機関の通知・指針をふまえ、また、新聞各社の報道を社会科学的に分析し、本推進部の対応を検討し、教職員、生徒・保護者への啓発に努めていく。 人権教育資料、たとえば、性的マイノリティの方の人権に関する資料を集め、学習教材の開発に努めるなど、生徒が多様な価値観の中から、自ら考える技能・態度を養えるように導く。 前年度の言葉遣いアンケートをふまえ、啓発に努める。2学期にアンケートを実施し、とりまとめ啓発する。人権講演会の実現により、多様な価値観をふまえ、生徒が主体的に判断する力を高める。 		○		○	○
教育相談・支援	<ul style="list-style-type: none"> 学年全体として、個別の支援計画作成への協力・推進が図られた。 担任・学年主任・養護教諭・部活動の顧問を中心としたクラス支援、生徒支援の連携ができた。 支援、ニーズの多様化に対し、校内・校外問わず情報交換の場をより多く持つ必要がある。 校内連携会議を行い、校外の関係機関とも連携をはかった。 教育支援担当者以外の教員にも、研修の案内を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画の活用を推進 校内連携を強めていく 他機関との連携作り 学校全体として支援理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援計画を作成し、支援会議等を開き活用していく。 教員間で情報交換を行い、早期の対応に努める。 他校や医療機関、就労支援機関等と連携し、進路決定等多方面から支援をしていく。 研修会・講演会等の参加を積極的に促す。 SC・SSW・サポステ連携を通じて学校全体としての支援理解・学びを深めていく。 		○		○	○
広報	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクール・説明会の参加者を増やすことができた。参加者数確保を継続し、入学志願者増加につなげるための、より効果的な実施内容・運営方法を検討していく必要がある。 Webページ・SNSによる情報発信を迅速に行うことができ、閲覧数・登録者数を確保することができた。引き続き、開かれた学校づくりのための広報活動を充実させ、提案していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> オープンスクール、学校見学説明会・入試説明会の充実と参加者の確保 開かれた学校づくりの推進と学校ブランディング 	<ul style="list-style-type: none"> 中学生・保護者・中学校への的確な情報発信 オープンスクール等の実施内容の精査、円滑な運営 広報活動の充実 Webの更新・管理運営 SNS等による情報発信 		○		○	○

学年分掌	令和元年度末の状況	令和2年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
学生会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事に向けて早めに準備に取り組む必要がある。 ○ 定期的に集まり、現状の確認や審議を行う環境が必要である。 ○ 他分掌と連携を図り、スムーズな運営ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事の充実 ○ 生徒会活動の充実 ○ 他分掌と連携しながら生徒会活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7月のスポーツ祭および10月の学校祭が充実したものになるように、計画・実施する。 ○ 生徒会担当の先生方や中央委員と連携を図りながら、学校行事の充実を目指す。 ○ 学校生活をより充実したものにするために、定期的に部会を開き、議論する。 ○ 放課後の清掃点検や園芸活動を行う。 ○ ボランティア活動の呼びかけを行い、生徒の参加を促す。 ○ 広報と連携し、定期的に松蔭TIMES発行を行う。 					
学年分掌	令和元年度末の状況	令和2年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
一年部	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣の確立 ○ 学習習慣の確立 ○ 家庭との連携 ○ 人権意識の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挨拶と正しい服装の定着を図る。 ○ 睡眠、食事、健康面の管理に努め、充実した学校生活を送るよう指導する。 ○ 授業に集中して取り組み、日頃から計画的に家庭学習を行うよう指導する。 ○ 保護者へClassiの登録・活用を促す。 ○ 学校からの配布物や家庭からの回答を必ず提出するよう指導する。 ○ 家庭との情報交換をこまめに行い、諸問題の早期発見と迅速な対応に努める。 ○ 学校行事や学級活動を通し、互いを思いやり尊重する心を育む。 		○		○	○
学年分掌	令和元年度末の状況	令和2年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
二年部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 【基本的な生活習慣・学習態度について】この1年間で挨拶の習慣や遅刻欠席の減少など概ね基本的な生活習慣は身に付いた。入学時と比較し、授業態度は良くなったが、主体的に学習に取り組むことができるレベルには至っていない。 ○ 【保護者との連携について】日頃からSNSやClassiでの情報を受け取る環境がある保護者に対しては効果があった。懇談等で活用できていない保護者へ促す必要がある。 ○ 【各クラスの状況】各クラスともクラスメイトと互いに支えあいながら生活を送る様子も見られるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣の定着を目指す。 ○ 学習習慣の確立と進路意識の高揚を目指す。 ○ 家庭との連携を密に行う。 ○ 様々な教育活動を通して、人権感覚に優れた真に社会に役に立つ人材の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝読書企画8:35～8:45の周知を図り、早めの登校を促すことにより、遅刻者の減少と落ち着いた雰囲気での授業開始を目指す。 ○ 担任が教科担当と密に連携を取り、家庭学習を促進する。また、研修旅行や総合的な探究の時間を通じて将来の目標を定める。 ○ ICT等を活用し、学校やクラスの情報提供をこまめに行う。また、生徒や保護者から相談があれば迅速に関係部署と連携を取り、対応を検討し連絡をする。 ○ 部活動や生徒会執行部への加入率の向上を目指すとともに、部活動顧問とも協力し成長を促す。 		○		○	○
学年分掌	令和元年度末の状況	令和2年度の目標	具体的方策	中間評価	中間評価に対する改善点	最終評価	目標の達成状況	次年度引継事項・改善策など
三年部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各クラスでの指導や朝の見回りを通し、少しずつ率先して挨拶したり、服装についても意識する生徒が増えてきた。また遅刻・欠席についても意識するようになってきた。 ○ 日々の授業に集中して取り組む生徒も増えた。自らの進路に向けて主体的に取り組む生徒もいるが、目標が定まらず受け身の生徒もみられた。 ○ 家庭との連絡をこまめにとり、保護者との連携は担任を中心にスムーズに行われた。 ○ 行き違いやトラブルなどもあるが、全体としては落ち着いてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な生活習慣の定着 ○ 学習習慣の確立と進路指導の充実 ○ 家庭との連携 ○ 人権意識を育てる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつや服装、時間を守ることを徹底させる。また最高学年としての自覚を持ち、責任を持った行動で生活を送るよう指導する。 ○ 進路決定に向け学びの姿勢を高める。また目標設定をし、日頃の授業から集中して取り組むように指導する。 ○ 保護者との連携を深め、学校での状況や家庭での様子について共通理解を図る。 ○ 学校行事やクラスでの活動を通して他者への理解を深め、人を思いやる心を育む。 		○		○	○